

# 採 蓮

Siren

第  
二  
号

No.21

# メアリー・エインズワース浮世絵コレクション

——資料にみる収集の過程と黎明期の日本・欧米における浮世絵愛好

松岡まり江



メアリー・エインズワース

当館では2019年4月より、アメリカ・オハイオ州にあるオーバリン大学アレ  
ン・メモリアル美術館が所蔵するメアリー・エインズワース浮世絵コレクショ  
ンの里帰り展を開催する。このコレクションは、同校の卒業生であるメアリー・  
エインズワース (Mary Andrews Ainsworth, 1867-1950) が収集し、死後寄贈され  
たもので、希少な初期の浮世絵版画から葛飾北斎・歌川広重までをカバーする  
1500点超から成る。本展の開催に先立って、2016年10月に現地での作品調査を  
行い、以後検討を重ねた成果は展覧会とそのカタログ等でご覧頂くが、本稿で  
は、筆者が特に興味を引かれたコレクターとしてのメアリー・エインズワース  
の収集について、またエインズワース在世時の欧米・日本における浮世絵版画の収集について、関連  
する資料を取り上げながら述べていきたい。

## 1、メアリー・エインズワースのコレクション形成

エインズワースについては、既にウィリアム・グリーン氏の論文 *Mary. A. Ainsworth: Pioneer American Woman Collector of Japanese Prints*<sup>1)</sup> に詳述されるので、まずそれに抛りながら伝記のあらましを述べたい。1867年1月12日、エインズワースはイリノイ州の裕福な実業家であった父ヘンリー、母サラの間に生まれた。ヘンリーは一代で財を成した人物で、メアリーが3歳の時にはイリノイ州 Moline (モーリーン) の高台とした邸宅を構えていた。一家はオーバリン大学に縁が深く、メアリーとその兄ハリーをはじめ家族の多くが同校に学んでいる。1885年、メアリーは18歳で入学し、2年生の過程を修了した後、一旦マサチューセッツ州ボストンの近郊にあるウェルズリー大学に転校しているが、1年後にはオーバリンに戻り、1889年に文学士号を取得して卒業した。卒業後、生家に戻り家事を担ったメアリーであるが、1906年 (明治39)、39歳の時に日本を訪れて初期浮世絵に魅せられ、浮世絵版画の収集を始めた。遡る1860年代にはフランスとイギリスでジャポニスムの第一波がすでに起こり、アメリカでは1876年にフィラデルフィアで開かれた建国百年記念万博をきっかけとして日本美術への関心が飛躍的に高まり、80年代後半から90年代にかけては実際に日本へ赴く旅行者が急増していた。エインズワースの日本行きの動機は、そのような潮流の中に位置づけることができるだろう。日本での足取りは定かではないが、6月7日にシアトルを発し、S.Sダコタ号で横浜に向かったこと、日本在住の米海軍のフレッチャー大佐夫妻に日本の版画を紹介されたことが明らかにされている<sup>2)</sup>。現在伝わるコレクションのうち、石川豊信の《提灯と傘を持つ佐野川市松》(柱絵判紅摺絵、アレ  
ン・メモリアル美術館での所蔵品番号1950.209) がこの日本滞在時に購入した品との指摘<sup>3)</sup>があるのみで、その他の購入品を特定できないことは惜しまれるが、このとき彼女を魅了した初期浮世絵への情熱がその後も長く続いたことは、当時でも非常に高価であったはずの初期浮世絵がコレクションに100点以上も含まれていることから跡付けられよう。またこの来日時、友人のために歌川広重の “a complete set of Great Tokaido series” (保永堂販東海道か) を持ち帰っているが<sup>4)</sup>、彼女自身が広重を愛し、熱心に収集していたことも、約800点というコレクションの過半を占める数の広重作品を収集したことから推察される。

さて、帰国してしばらく後、1910年に父ヘンリーが没し、47歳のメアリーは遺産によって大富豪となる。以後収集はさらに活発化し、彼女はディーラー達から、また大きな売立てに出向いて作品を購入し、その後四半世紀にわたり収集を続けた。

エインズワースの収集については、コレクションとともにアレン・メモリアル美術館に伝わる書簡や領収書類、友人の著書や売立目録などから、部分的ながらその過程を辿ることができる。

### 【1-1 収集の過程と楽しみ——同時代の書籍、書簡から】

エインズワースと同じイリノイ州モーリーン在住の弁護士ジャドソン・メッツガー(1869-1958)は、彼女の友人であり、浮世絵の熱心な収集家で、やがてディーラーや浮世絵収集のアドバイザーとなった人物である。エインズワースが1906年の日本旅行からの土産として広重の東海道揃物を持ち帰った相手こそこのメッツガーであり、彼女のコレクションとその成長を当初からよく見知っていた。彼の著書*Adventures in Japanese Prints*には次のような記述をはじめとして、エインズワースが複数箇所に登場する<sup>5</sup>。

“私は、故郷で小さなコレクションを見せられるまで、見事な日本の版画を見たことがあったのか覚えていない。それらは友人が日本で買ったもので、彼女の自宅での食事の後に幾度かそれらを見た。わたしはほとんど興味がわかなかったし、実際退屈していた。一つには、適切にマウントされておらず、多くが台紙に貼り付けられていない状態であつたので、その美しさを見落としたのだ。(中略)……この小さなコレクションについては後年、国内でも有数のコレクションに成長し、長年、私を大いに楽しませてくれたので、後にも再び述べることにする。友人はもう一度日本へ旅し、私に広重の偉大な東海道の揃物の完全なセット(a complete set of Great Tokaido series by Hiroshige)を持ってきてくれた。非常に良い状態のものではなく、マットのようなものはなしで、1冊に縫い閉じられていた。”

1906年の来日以前にもエインズワースが日本を訪れたことを示唆するこの箇所のほか、彼女が収集した版画をマウントすることを好まず、日本から持ってきたままの状態、本人の言を借りると「日本人が保存している状態」で保存することに強い拘りを持っていたというエピソードなどが記されている。メッツガーは自身のコレクションを3度売立てに出して大きな利益を得ており、1920年代にロサンゼルスに移住しているが、1950年にエインズワースが没してコレクションがオーバリン大学に寄贈される際には、目録を作成し評価額の査定にあたっている。

このメッツガーやエインズワースのコレクター仲間であつたのが、ダベンポートの法律家で詩人でもあったアーサー・デビッドソン・フィッケ(1883-1945)で、彼が1915年に出版した著書*Chats on Japanese Prints*には東洲斎写楽の《二代目小佐川常世の一平姉おさん》(大判錦絵、1950.436)が“Ainsworth Collection”として紹介されている。メッツガー同様、フィッケも自身のコレクションを2度売立てに出しており、詳しくは後述するが、エインズワースのコレクションにもフィッケの旧蔵品が多く含まれている。

当時のアメリカ中西部では、シカゴの銀行家バッキングム兄妹(兄クラレンス 1854-1913、妹ケイト 1858-1937)とその収集を助けたフレデリック・ゲーキン(1853-1936)、建築家フランク・ロイド・ライト(1867-1959)などが有力なコレクターとして活動していた。彼らはオークション会場ではライバルであつたが、“print party”“print fest”と呼ばれるような集まりを催し、お互いに招き招かれながら時に新しく収蔵した作品を披露し、意見交換を楽しむことを忘れなかった。先行研究においても、1914年にボストンのスポルディング兄弟がライトから数千点の浮世絵を購入した際、1週間にも及ぶお披露目のprint partyが催され、エインズワースを含むコレクター達が出席したことが分かっている。コレクター達は毎朝早くにスポルディング邸を訪れ、暗くなるまで去ろうとしなかった。その場合は、主催のスポルディングをして“彼らはあなた(ライト)の日本の版画に夢中でした。私達は全コレクションを制覇することはできなかったが、存在するすべての形容詞を使い尽くすには十分な量を見たの

です。”と言わしめる白熱ぶりであったという<sup>7</sup>。

エインズワースについても、小規模ながらこうした催しを楽しんでいたことが、次に挙げるフレデリック・グーキンからの礼状によって分かる。

“親愛なるミス・エインズワース

メッツガー氏とあなたに、モーリーン訪問のお礼を心から申し上げます。あなたの興味深いコレクションとホスピタリティを楽しく思い返しています。高いレベルの洗練された掛物と版画が特に印象的でした。英一蝶の《鷺》は私がこれまで見たこの絵師の作品で一番優れたものでした。サインの「北窓翁一蝶画」は「hoku-so-wō-icchō-ga」と読み、「hoku-sō-wō」はアンダーソンによれば北向きの窓の古老、ハットリ氏によれば北窓の老人という意味です。雲の中にいて「Hokyo Ryusen」とサインがある竜ですが、「Ryusen」で唯一私が知っているのは師宣の弟子、もしくは贋作者のRyusenだけです<sup>8</sup>。アンダーソンは彼の姓を石川としていますが、彼に法橋の称号が与えられていたかは言及していません。十六善神を描いたカンダソテイについて、また地藏菩薩を描いたセイイツについても何も知りません。そしておお！寿老人と少年の版画にあった丸い印は、版元印であることが分かりました。今日の午後にもあなたがバッキンガム氏宅で彼の版画を鑑賞するための小さなコレクターの集まりにいらっしゃればと願っています。メッツガー氏もメンバーの1人ですから、あなたがシカゴにいらしたときに待っている楽しみについて、彼が受けた印象をお伝えするでしょう。 敬具 フレデリック・グーキン”<sup>9</sup>

日付のない短い手紙だが、グーキンがモーリーンにエインズワースとメッツガーを訪ね、彼女のコレクションを見たことや、浮世絵のエキスパートとしてバッキンガム兄妹の収集を助け、数々のコレクションの目録を作成していたグーキンにエインズワースがあれこれと質問をしたこと、そしてシカゴで行われるコレクターの集まり——恐らくは小規模なprint party——に招かれていたことが分かる。バッキンガム兄弟、グーキン、フランク・ロイド・ライト、モーリーンのメッツガー、ダベンポートのフィッケーラ、有力なコレクター達がシカゴとその周辺都市にあったことは、エインズワースの収集にも少なからぬ刺激と影響を与えたに違いない。

さて、エインズワース邸でのprint partyは、グーキンやメッツガーといったコレクターを招く会のほか、より親しい身内を招いても行われていたようだ。グリーン氏の論考には家族による証言が引かれており、エインズワース家の人々がメアリーのコレクションを通して浮世絵に親しんでいた様子を偲ぶことができる<sup>10</sup>。

“私の記憶によれば、私の姉妹やその夫、兄弟やその妻、そして私達といった親族を呼ぶのは、いとこのメアリーの習慣でした。たいてい午後遅くに始まり、車でやってきておしゃべりに立ち寄っては、版画を見せるために私達を近日中の夕食に招待するのです。このために、彼女は安全のために預けてある銀行から版画を移動して準備し、丘の上の家族の家のリビングに半円状にいすを並べて席を作り（おそらく10-15人分）、版画を私達の前のイーゼルに置いて、それについて語っていました。私達は彼女が他のものと入れ替えるまで、それを数分見ていたのです。”

“1921年の6月に高校を卒業した後、卒業のお祝いとして、いとこのメアリーは2枚の日本の版画を持って私の家を訪れ、私の選んだ1枚をくれました。それらをよく見て密かにがっかりしたことには、どちらも役者絵（私は写楽の役者絵を見て強く惹きつけられていました）ではなかったのです。私は特に説明のない、ここ数年私を楽しませてくれていた広重を選びました。それは街道の風景を描いた作品のうち、日本の男子の成人を祝う幟がある1枚であったと記憶しています。”

# 【1-2 コレクションの形成——現存の売立目録や書簡、領収書類にみる】

エインズワースコレクションを構成する作品の来歴については、1984年に出版されたカタログ(*Japanese Woodblock Prints ;A Catalogue of the Mary A. Ainsworth Collection*)所載の目録(以下、キーズ目録と略称)で既に詳述されているが<sup>11</sup>、このたび千葉市美術館所蔵の売立カタログについても調査したところ、エインズワースの落札を示す名前の書込みとその落札価格が記されているものを6冊確認することができた。キーズ氏目録と照合するとほぼ全て内容が一致し、信憑性は高いと思われるので、以下表(1)～(6)にまとめて示す。また、千葉市美所蔵のカタログにはエインズワースの落札が明記されていないものの、キーズ目録で売立が特定されている作品についても、※印をつけて表内に示す。

表(1)

Rare Japanese Color Prints, The Collection of Mrs. John Osgood Blanchard, American Art Association, NY (1916年4月5-6日)

| 売立No. | 絵師    | 作品名                                    | 判型            | 落札価格(\$)     | 現在のコレクションNo   |
|-------|-------|----------------------------------------|---------------|--------------|---------------|
| 28    | 勝川春潮  | 田園の美人                                  | 大判錦絵(2枚続きのうち) | 35           | 1950.381      |
| 38A-E | 喜多川歌麿 | 五節句                                    | 大判錦絵5枚続       | 162.5(各32.5) | 50.421A-E     |
| 60    | 歌川豊広  | 落雁図                                    | 小判藍摺絵         | 15           | 50.465        |
| 198   | 葛飾北斎  | 「富嶽三十六景 下目黒」                           | 大判錦絵          | 25           | 50.719        |
| 202   | 葛飾北斎  | 「富嶽三十六景 江都駿河町三井見世略図」                   | 大判錦絵          | 25           | 50.718        |
| 203   | 葛飾北斎  | 「富嶽三十六景 東都駿台」                          | 大判錦絵          | 35           | 50.721        |
| 209   | 葛飾北斎  | 「諸国瀧廻り 相州大山ろうべんの瀧」                     | 大判錦絵          | 27.5         | 50.753        |
| 212   | 葛飾北斎  | 「百人一首うはかゑるとき 安倍仲麿」                     | 大判錦絵          | 27.5         | 50.756        |
| 214   | 葛飾北斎  | 「百人一首姥かゑるとき 菅家」                        | 大判錦絵          | 17.5         | 50.758        |
| 229   | 葛飾北斎  | 「諸国名橋奇覧 三河の八つ橋の古づ」                     | 大判錦絵          | 35           | 50.747        |
| 255   | 歌川広重  | 「東都名所 梅屋敷満花之図」                         | 中短冊判錦絵        | 12.5         | 50.1128       |
| 262   | 歌川広重  | 「東都名所 御殿山花見」                           | 間短冊判錦絵        | 7.5          | 50.1128       |
| 295   | 歌川広重  | 「不二三十六景 東都駿河台」                         | 中判錦絵          | 6            | 50.1202       |
| 307   | 歌川広重  | 「不二三十六景 東都水道橋」                         | 中判錦絵          | 6            | 50.1203       |
| 335   | 歌川広重  | 「東海道 四十六 五十三次之内(蔦屋版東海道) 庄野・亀山・関・坂ノ下 か」 | 中判錦絵4枚か       | 2            | 50.1030.43-46 |
| 368   | 歌川広重  | 「五十三次名所図会」(「堅絵東海道」藤沢・平塚・大磯・小田原         | 大判錦絵4枚        | 9            | 50.1331-4     |
| 393   | 歌川広重  | 「東海道五拾三次之内 吉原 左富士」(保永堂版東海道、以下同)        | 大判錦絵          | 12           | 50.805        |
| 415   | 歌川広重  | 「東海道五拾三次之内 赤阪旅舎招婦の図」                   | 大判錦絵          | 10           | 50.827AもしくはB  |
| 427   | 歌川広重  | 「東海道五拾三次之内 阪之下筆捨嶺」                     | 大判錦絵          | 11           | 50.840か840A   |
| 438   | 歌川広重  | 「東海道 二 五十三次 品川」(隸書東海道、以下同)             | 大判錦絵          | 15           | 50.921        |
| 443   | 歌川広重  | 「東海道 五十三次 藤沢」                          | 大判錦絵          | 7            | 50.926        |
| 456   | 歌川広重  | 「東海道 二十 五十三次 府中」                       | 大判錦絵          | 15           | 50.938        |
| 512   | 歌川広重  | 藤に四十雀                                  | 中短冊判錦絵        | 30           | 50.1151       |
| 518   | 歌川広重  | 桃に小禽                                   | 四ツ切判錦絵        | 20           | 50.1189       |
| 544   | 歌川広重  | 雪中椿に鴛鴦                                 | 間短冊版錦絵        | 12.5         | 50.1174       |
| 548   | 歌川広重  | 山桜に四十雀                                 | 間短冊版錦絵        | 12.5         | 50.1160       |
| 554   | 歌川広重  | 菊に鴛鴦                                   | 間短冊版錦絵        | 17.5         | 50.1171       |
| 564   | 歌川広重  | 芙蓉に錦鶏                                  | 間短冊版錦絵        | 27.5         | 50.1162       |
|       |       | 28件                                    |               | 638          |               |

この売立てにかけられたJohn Osgood Blanchardの収集品は1906年から1909年の日本滞在時に収集した

585枚で、当時神戸在住であった収集家のジョン・ハッパーのコレクションに刺激を受けて収集が過熱したという。広重の『不土三十六景』はブランチャードの父が、1854年に東インド艦隊司令官ペリーが横浜に上陸した折にペリーに同行し、購入した品であることが、売立目録の序文に記される。北斎と広重の優品、特に90点を超える広重の花鳥画が出品され、エインズワースも6点をコレクションに加えている<sup>12</sup>。

表(2)

Collection of The Late Frederick May, Rare and Valuable Japanese Color Prints, American Art Galleries, NY (1918年5月6-10日)

| 売立No      | 絵師    | 作品名                            | 判型      | 落札価格(\$) | 現在のコレクションNo        |
|-----------|-------|--------------------------------|---------|----------|--------------------|
| ※154      | 歌川広重  | 「東海道五拾三次之内 日本橋行列振出」            | 大判錦絵    | 15       | 1950.789           |
| 355       | 北尾政演  | 『青楼名君白筆集』                      | 1帖(7図)  | 350      | —                  |
| ※393      | 葛飾北斎  | 「富嶽三十六景 東都浅草本願寺」               | 大判錦絵    | 5        | 50.723             |
| ※399      | 葛飾北斎  | 「富嶽三十六景 深川万年橋下」                | 大判錦絵    | 22.5     | 50.725             |
| ※402      | 葛飾北斎  | 「富嶽三十六景 隅田川関屋の里」               | 大判錦絵    | 25       | 50.729             |
| ※408      | 葛飾北斎  | 「富嶽三十六景 甲州三鳥越」                 | 大判錦絵    | 30       | 50.727             |
| ※410      | 葛飾北斎  | 「富嶽三十六景 東海道金谷ノ不二」              | 大判錦絵    | 30       | 50.730か<br>50.730A |
| ※411      | 葛飾北斎  | 「富嶽三十六景 上総ノ海路」                 | 大判錦絵    | 30       | 50.724             |
| ※523      | 歌川広重  | 「東海道五拾三次之内 草津 名物立場」            | 大判錦絵    | 5        | 50.844             |
| 591       | 鳥居清長  | 洗濯と張り物                         | 大判錦絵3枚続 | 830      | 50.376             |
| ※642      | 葛飾北斎  | 小禽に虻                           | 中判錦絵    | 12.5     | 50.760             |
| ※646      | 葛飾北斎  | 「諸国名橋奇覧 足利行道山くものかけはし」          | 大判錦絵    | 22.5     | 50.749             |
| ※650      | 葛飾北斎  | 「諸国名橋奇覧 かめみど天神たいこばし」           | 大判錦絵    | 22.5     | 50.748             |
| ※651      | 葛飾北斎  | 「諸国名橋奇覧 摂州阿治川口天保山」             | 大判錦絵    | 22.5     | 50.746             |
| ※655      | 葛飾北斎  | 「琉球八景 衆村竹籬」                    | 大判錦絵    | 12.5     | 50.752             |
| ※666      | 葛飾北斎  | 「文鳥 辛夷花」                       | 中判錦絵    | 7.5      | 50.759<br>ラファージ旧蔵  |
| ※687      | 歌川広重  | 「東都名所 上野東叡山の図」                 | 大判錦絵    | 5        | 50.1099            |
| ※888      | 葛飾北斎  | 「百物語 笑ひはんにや」                   | 中判錦絵    | 10       | 50.763             |
| 933       | 歌川広重  | 「東海道 三 五十三次 川崎」<br>(隸書東海道、以下同) | 大判錦絵    | 12.5     | 50.922             |
| 934       | 歌川広重  | 「東海道 四 五十三次 かな川」               | 大判錦絵    | 12.5     | 50.923             |
| 936       | 歌川広重  | 「東海道 六 五十三次 戸塚」                | 大判錦絵    | 15       | 50.925             |
| 938       | 歌川広重  | 「東海道 二十 五十三次 府中」               | 大判錦絵    | 12.5     | 50.927             |
| 943       | 歌川広重  | 「東海道 十四 五十三次 原」                | 大判錦絵    | 15       | 50.933             |
| 944       | 歌川広重  | 「東海道 十五 五十三次 吉原」               | 大判錦絵    | 15       | 50.934             |
| ※950      | 歌川広重  | 「東海道 廿二 五十三次 岡部」               | 大判錦絵    | 7.5      | 50.940             |
| ※951      | 歌川広重  | 「東海道 廿三 五十三次 藤枝」               | 大判錦絵    | 7.5      | 50.941             |
| 952       | 歌川広重  | 「東海道 廿四 五十三次 島田」               | 大判錦絵    | 7.5      | 50.942             |
| 953       | 歌川広重  | 「東海道 廿五 五十三次 金谷」               | 大判錦絵    | 7.5      | 50.943             |
| ※954      | 歌川広重  | 「東海道 廿六 五十三次 日阪」               | 大判錦絵    | 25       | 50.945             |
| 955       | 歌川広重  | 「東海道 三十 五十三次 はま松」              | 大判錦絵    | 40       | 50.948             |
| ※969      | 歌川広重  | 「東海道 四十五 五十三次 石薬師」             | 大判錦絵    | 7.5      | 50.963             |
| ※973      | 歌川広重  | 「東海道 四十九 五十三次 坂の下」             | 大判錦絵    | 5        | 50.967             |
| ※974      | 歌川広重  | 「東海道 五十 五十三次 土山」               | 大判錦絵    | 2.5      | 50.968             |
| ※977      | 歌川広重  | 「江都名所 上野不忍の池」                  | 大判錦絵    | 12.5     | 50.1110            |
| 1104-1109 | 鈴木春信  | 「婚礼錦貞女車」見合・結納・興入れ・盃・色直し・床盃・    | 中判錦絵6枚  | 400か     | —                  |
| 1270      | 磯田湖龍斎 | 煙草をに火を着ける男女                    | 柱絵判錦絵   | 10       | 50.298             |
|           |       | 36件                            |         | 2072.5   |                    |

初期浮世絵を比較的多く含む約1300件のコレクションの売立てでは、清長の3枚続《洗濯と張り物》を830ドルという高額で購入している。葛飾北斎『富嶽三十六景』は現在のコレクションに26点が含まれるが、うち6点をこの売立てで入手しているほか、『諸国名橋奇覧』(3点)や『琉球八景』(1点)などの北斎作品、広重の通称『隸書東海道』は15点をこの時コレクションに加えている。また、今回調査した売立てでの購入品はほとんど全てアレン・メモリアル美術館に寄贈された中に含まれていたが、政演の『青楼名君自筆集』や春信の「婚礼錦貞女車」は見出すことができなかった。

表(3)

Rare and Valuable Japanese Color Prints, The Private Collection of Mr. Arthur Davidson Ficke, American Art Association, NY (1920年2月10-11日)

| 売立No | 絵師       | 作品名                             | 判型                | 落札価格(\$) | 現在のコレクションNo |
|------|----------|---------------------------------|-------------------|----------|-------------|
| 35   | 二代鳥居清信   | 「三幅対村雨 行平 松風」                   | 大判(細判三丁掛)紅摺絵      | 800      | 1950.143    |
| 45   | 西村重長(複製) | 若衆図                             | 細判漆絵              | 300      | 50.164      |
| ※56  | 鳥居清倍     | 笠を被った若衆                         | 柱絵判紅摺絵            | 130      | 50.225      |
| ※90  | 鈴木春信     | 牡丹に錦鶏                           | 柱絵判錦絵             | 160      | 50.247      |
| 119  | 磯田湖龍斎    | 「霏屋内 新すがわら」                     | 柱絵判錦絵             | 120      | 50.299      |
| 129  | 磯田湖龍斎    | 「風流六哥仙 文屋安秀」                    | 柱絵判錦絵             | 60       | 50.300      |
| 167  | 勝川春章     | 二代目市川八百蔵の桜丸                     | 細判錦絵              | 210      | 50.282      |
| 193  | 北尾重政     | 見立鉢の木                           | 柱絵判錦絵             | 100      | 50.294      |
| 202  | 鳥居清長     | 二代目市川門之助の助六                     | 細判錦絵              | 120      | 50.336      |
| ※203 | 鳥居清長     | 「風流四季の月詣 花見月」                   | 中判錦絵              | 90       | 50.349      |
| ※223 | 鳥居清長     | 眉を装う芸者                          | 柱絵判錦絵             | 160      | 50.372      |
| ※245 | 勝川春潮     | 押上村行楽                           | 大判錦絵3枚続の右         | 200      | 50.383      |
| 255  | 勝川春潮     | 隅田川を眺める芸者                       | 柱絵判錦絵             | 65       | 50.384      |
| 257  | 勝川春潮     | 「深川八景 やぐら下のぼんしやう」               | 小判錦絵              | 50       | 50.380      |
| ※289 | 鳥文斎栄之    | 「浮世十二月 大呂」                      | 小判錦絵              | 22.5     | 50.447      |
| 291  | 鳥文斎栄之    | 花下御所車                           | 大判錦絵3枚続           | 210      | 50.454      |
| 294  | 鳥文斎栄之    | 「都北東之錦」                         | 中判錦絵              | 150      | 50.446      |
| 336  | 喜多川歌麿    | 『狂月坊』山野の月                       | 彩色摺絵入狂歌本(もと一帖のうち) | 130      | 50.399      |
| 341  | 喜多川歌麿    | 蹴鞠                              | 柱絵判錦絵             | 80       | 50.423      |
| 386  | 恋川春政     | 梅川忠兵衛                           | 柱絵判錦絵             | 105      | 50.472      |
| 390  | 河鍋曉斎     | 梅枝の鳥                            | 幅広柱絵              | 120      | 50.682      |
| 765  | 歌川広重     | 「東海道 一 五十三次 日本橋」<br>(隸書東海道、以下同) | 大判錦絵              | 7.5      | 50.920      |
| ※773 | 歌川広重     | 「東海道 九 五十三次 大磯」                 | 大判錦絵              | 7.5      | 50.928      |
| ※781 | 歌川広重     | 「東海道 十七 五十三次 由井」                | 大判錦絵              | 17.5     | 50.936      |
| 782  | 歌川広重     | 「東海道 十八 五十三次 興津」                | 大判錦絵              | 17.5     | 50.937      |
| 789  | 歌川広重     | 「東海道 廿五 五十三次 金谷」                | 大判錦絵              | 7.5      | 50.943      |
| 792  | 歌川広重     | 「東海道 廿八 五十三次 袋井」                | 大判錦絵              | 15       | 50.946      |
| 795  | 歌川広重     | 「東海道 卅一 五十三次 舞坂」                | 大判錦絵              | 7.5      | 50.949      |
| 796  | 歌川広重     | 「東海道 卅二 五十三次 荒井」                | 大判錦絵              | 45       | 50.950      |
| 797  | 歌川広重     | 「東海道 卅三 五十三次 白須賀」               | 大判錦絵              | 10       | 50.951      |
| 806  | 歌川広重     | 「東海道 四十二 五十三次 宮」                | 大判錦絵              | 17.5     | 50.960      |
| 807  | 歌川広重     | 「東海道 四十三 五十三次 桑名」               | 大判錦絵              | 40       | 50.961      |
| ※808 | 歌川広重     | 「東海道 四十四 五十三次 四日市」              | 大判錦絵              | 30       | 50.962      |
| ※815 | 歌川広重     | 「東海道 五十一 五十三次 水口」               | 大判錦絵              | 20       | 50.969      |
| 829  | 歌川広重     | 「名所江戸百景 日暮里寺院の林泉」               | 大判錦絵              | 10       | 50.1386     |
| 866  | 歌川広重     | 「名所江戸百景 利根川ばらばらまつ」              | 大判錦絵              | 40       | 50.1425     |
| 896  | 歌川広重     | 「名所江戸百景 愛宕下敷小路」                 | 大判錦絵              | 40       | 50.1453     |
|      |          | 37件                             |                   | 3715     |             |

フィッケが暮らしたアイオワ州ダベンポートは、メッツガーやエインズワースの住むイリノイ州モーリーンと地理的に近く、親しい交流のあったコレクター。この売立てに出品した900件に及ぶ版画の過半は、主要な揃物や花鳥画を擁する広重のコレクションであった。エインズワースは表(2)の売立て

に続き広重の『隸書東海道』を13点、『名所江戸百景』を3点コレクションに加えたが、初期から黄金期までの絵師の作品も多く購入している。中でも、800ドルという高額で落札した二代清信の細判3丁掛紅摺絵《三幅対村雨 行平 松風》は、売立目録に大きく図入りで掲載された注目の作品で、画題の詳細な考察とともに、1910年にロンドンで行われたヘンリー・アップルトン旧蔵品の売立てに出品された品であることが来歴として記される。この時のエインズワースの落札は2月14日発行のAmerican Art News紙のオークション紹介記事に取り上げられている<sup>13</sup>。

表(4)

Japanese Color Prints, A Noted French Collection, Walpole Galleries, NY (1921年1月20-23日)<sup>14</sup>

| 売立No | 絵師      | 作品名               | 判型          | 落札価格(\$) | 現在のコレクションNo |
|------|---------|-------------------|-------------|----------|-------------|
| ※171 | 歌川国芳    | 鍾馗                | 大判錦絵        | 22.5     | 1950.664    |
| ※227 | 旦霞      | 隅田川東岸之図           | 団扇絵判錦絵      | 11       | 50.698      |
| ※258 | 窪俊満か    | 「江都十所絶景」          | 中判錦絵        | 90       | 50.435      |
| 280  | 鳥居清長    | 年始回礼の支度           | 中判錦絵        | 430      | 50.346      |
| 285  | 鳥居清長    | 「江都七福神まいり 日暮里 布袋」 | 中判錦絵(2枚続の左) | 65       | 50.343      |
| 322  | 鳥文斎栄之   | 「略花六撰 黒主」         | 大判錦絵        | 40       | 50.448      |
| 325  | 勝川春英    | 三代目瀬川菊之丞の油屋おそめ    | 大判錦絵        | 220      | 50.305      |
| 466  | 歌川広重    | 「京都名所之内 糺川原之夕立」   | 大判錦絵        | 87.5     | 50.1047     |
| 478  | 歌川広重    | 「東都名所 隅田川葉桜之景」    | 大判錦絵        | 110      | 50.784      |
| 512  | 葛飾北斎    | 「富嶽三十六景 山下白雨」     | 大判錦絵        | 425      | 50.712      |
| 514  | 葛飾北斎    | 「富嶽三十六景 凱風快晴」     | 大判錦絵        | 300      | 50.711      |
| 541  | 歌川広重    | 八重桜に燕             | 大短冊判錦絵      | 75       | 50.1136     |
| 548  | 二代喜多川歌麿 | 芍薬と蝶              | 短冊判錦絵       | 55       | 50.405      |
| 589  | 鳥居清長    | 「四季の不二 駿河町」       | 中判錦絵        | 50       | 50.339      |
| 658  | 喜多川歌麿   | 山姥と金太郎 嵐          | 大判錦絵        | 25       | 50.412      |
|      |         | 15件               |             | 2006     |             |

北斎の『富嶽三十六景』を代表する《山下白雨》《凱風快晴》を入手しているほか、清長の《年始回礼の支度》を430ドル、勝川春英の大首絵《三代目瀬川菊之丞の油屋おそめ》を220ドルという高額で購入している。

表(5)

Rare and Valuable Japanese Color Prints, Including the Collection of Julio E. Van Caneghem of Paris, Walpole Galleries, NY (1921年3月2-3日)

| 売立No | 絵師    | 作品名                   | 判型                | 落札価格(\$) | 現在のコレクションNo |
|------|-------|-----------------------|-------------------|----------|-------------|
| 13   | 鳥居清満  | 「みだ二郎 坂東彦三郎」か         | 細判紅摺絵             | 55       | 1950.217    |
| 19   | 不詳    | 「梅かへ 瀬川菊之丞」           | 細判紅摺絵             | 12       | 50.176      |
| 34   | 鳥居清長  | 「娘おなみ(三代目)瀬川菊之丞」      | 細判錦絵              | 75       | 50.330      |
| 59   | 鳥居清長  | 「風俗東之錦」武家の若殿、乳母と侍女二人  | 大判錦絵              | 62.5     | 50.356      |
| 84   | 柳々居辰斎 | (孟宗)                  | 小判錦絵              | 10       | 50.762      |
| 105  | 歌川国芳  | 「百人一首之内 大中臣能宣朝臣」      | 大判錦絵              | 22.5     | 50.523      |
| 107  | 歌川国芳  | 「百人一首之内 藤原興風」         | 大判錦絵              | 35       | 50.516      |
| 113  | 歌川国芳  | 「東都富士見三十六景 新大はし橋下の眺望」 | 大判錦絵              | 110      | 50.571      |
| 238  | 北尾政美  | 「角田川八景 しほ入りの夕照」       | 中判錦絵              | 350      | 50.440      |
| 261  | 喜多川歌麿 | 『狂月坊』吉原の月見            | 彩色摺絵入狂歌本(もと一帖のうち) | 10       | —           |
| 264  | 喜多川歌麿 | 『狂月坊』月宮殿              | 彩色摺絵入狂歌本(もと一帖のうち) | 22.5     | 50.399A     |
|      |       | 11件                   |                   | 764.5    |             |

表(6)

The Famous Collection of the Late Alexis Rouart of Paris, France Together with the Collection with Vicomte de Sartiges and a few prints from another Parisan Collection,  
American Art Galleries, NY (1922年2月6-7日)

| 売立No | 絵師         | 作品名                    | 判型       | 落札価格(\$) | 現在のコレクションNo |
|------|------------|------------------------|----------|----------|-------------|
| 21   | 奥村政信       | 柳下で涼む遊女                | 細判紅摺絵    | 190      | 1950.198    |
| 28   | 奥村政信(複製)   | (猩々と遊女)                | 大判墨摺絵    | 5        | 50.191      |
| 29   | 奥村利信       | 木兎と雀                   | 細判漆絵     | 120      | 50.159      |
| 31   | 石川豊信       | 傘を持つ美人                 | 幅広柱絵判紅摺絵 | 310      | 50.210      |
| 46   | 鳥居清満       | 菅丞相                    | 細判水絵     | 32.5     | 50.216      |
| 53   | 鈴木春信       | 柿本人麻呂                  | 細判水絵     | 5        | 50.230      |
| 70   | 鳥居清長       | 「美南見十二候」 三月 御殿山の<br>花見 | 大判錦絵2枚続  | 75       | 50.375      |
| 79   | 歌川豊春       | 浮絵(一の谷合戦)              | もと大判錦絵   | 15       | 50.442      |
| 162  | 魚屋北溪       | 「牛が淵」                  | 色紙判摺物    | 12.5     | 50.482      |
| 173  | 歌川国芳       | 「東都名所 洲崎初日出の図」         | 大判錦絵     | 7.5      | 50.530      |
| 174  | 歌川国芳       | 「東都名所 かすみか関」           | 大判錦絵     | 7.5      | 50.534      |
| 224  | 歌川広重       | Take                   | 不明       | 100      | —           |
| 238  | 歌川広重       | 「近江八景之内 比良暮雪」          | 大判錦絵     | 105      | 50.1056     |
| 250  | 鈴木春信       | 菊の鉢植え                  | 中判錦絵     | 190      | 50.240      |
| 251  | 鈴木春信       | 破れ堀前の男女                | 中判錦絵     | 130      | 50.237      |
| 266  | 一筆斎文調      | 中村松江の宗貞女房桜木            | 細判錦絵     | 25       | 50.315      |
| 270  | 一筆斎文調・鈴木春信 | やつし草摺引                 | 中判錦絵     | 100      | 50.317      |
| 287  | 鳥居清長       | 「美南見十二候」四月 品川沖の<br>汐干  | 大判錦絵2枚続  | 150      | 50.374      |
| 424  | 歌川広重       | ぼらにうど(魚つくし)            | 大判錦絵     | 12.5     | 50.1237     |
| 425  | 歌川広重       | かさごいさきに薑(魚つくし)         | 大判錦絵     | 12.5     | 50.1236     |
| ※504 | 鈴木春信       | 松風村雨                   | 中判錦絵     | 45       | 50.238      |
|      |            | 21件                    |          | 1650     |             |

紅摺絵や漆絵といった初期浮世絵や、春信・清満の水絵など、エインズワースの嗜好に沿った作品のほか、奥村政信の複製品《猩々と遊女》(大判墨摺絵、1950.191)を購入していることが注目される。この複製品については、恐らくは後摺であることが売立ての段階で目録に明記されており、初期浮世絵としては安価であることから、資料として購入したと推察される。

さて、このたび目録を直接確認できた以上6つのオークションに、先学により指摘のあるエインズワースが作品を購入した売立てを加えると、表(7)のようになる<sup>15</sup>。

表(7)エインズワースが作品を購入したと指摘される売立て

| 開催日時          | 売立                                               | 場所                                 | 備考                 |
|---------------|--------------------------------------------------|------------------------------------|--------------------|
| 1910          | Henry Appleton                                   | Sotheby, Wilkinson & Hodge, London |                    |
| 1916.4.5-6    | Mrs. John Osgood Blanchard                       | American Art Galleries, NY         | 表1<br>28件 \$638    |
| 1916.11.13-14 | Judson D. Metzgar                                | ”                                  | 表9<br>12件か         |
| 1917.5.12-13  | Kenkichi Hirakawa                                | ”                                  | 平川健吉               |
| 1918.5.6-10   | Frederic May                                     | ”                                  | 表2<br>36件 \$2072.5 |
| 1919.5.1-2    | Mrs. Adolphe Borie                               | Walpole Galleries, NY              | 表8<br>4件 \$772.5   |
| 1919.5.15-16  | Judson D. Metzgar                                | American Art Galleries, NY         |                    |
| 1920.2.10-11  | Arthur Davidson Ficke                            | ”                                  | 表3<br>37件 \$3715   |
| 1921.1.20-23  | Japanese Color Prints, A Noted French Collection | Walpole Galleries, NY              | 表4<br>15件 \$2006   |
| 1921.3.2-3    | Julio E. Van Caneghem                            | ”                                  | 表5<br>11件 \$764.5  |

|               |                                 |                            |                  |
|---------------|---------------------------------|----------------------------|------------------|
| 1921.11.16-18 | William S.and John T. Spaulding | American Art Galleries, NY |                  |
| 1922.2.6-7    | Alexis Rouart                   | ”                          | 表6<br>21件 \$1650 |
| 1922.2.9-10   | Robert Howard Russell           | Walpole Galleries, NY      |                  |
| 1922.11.27-29 | Ch. Haviland                    | Salle Drouot, Paris        |                  |
| 1924.5.5-11   | Louis Gonse                     | Salle Drouot, Paris        |                  |

上記のような売立てには、出来る限り自分で参加していたようだが、時として代理人を立てることもあった。次に挙げる書簡は、ニューヨーク郊外のブルックリンに在住する画家で、ディーラーでもあったハミルトン・イースター・フィールド(1873-1922)からのもので、1919年5月1-2日に開催された Mrs. Adolphe Borie Collectionの売立てに参加した翌日の日付がある<sup>16</sup>。ここに登場するK. Matsukiは、兄の文恭ともにディーラーで、目利き、収集家としても知られた松木喜八郎(1879-1942)。Mr. Hallはギャラリーのオーナーである。

“1919年5月3日

ミス・エインズワース

私は私のしたことにおびえつつも、あなたのご興味に可能な限り沿うように動こうと努めています。木曾街道の揃物は全て不適切にトリミングされていて、あなたのお望みになるようなものは1枚もなかったの、1枚も入札していません。no.107の国芳は例外的に優れていました。私がこれまで見た中で一番です。緑の縁はカットされてしまっていますが、緑の縁がカットされていないものを見つけるのは不可能でしょうし、縁がついている良い状態のものを見たことはありません。部屋に入ってすぐ、松木氏は私に(彼に)買わせてほしいと頼みました。そして彼の神経質な様子は、彼が非常にそれを手に入れたがっている証拠です。私は、それはできないと伝え、売立てでは勝負せねばならないことを伝えました。彼は慌てているようでした。値段は急速に上がっていき、松木氏とミス・ブラックが何百ドル単位で入札してきました。彼らがぼんやりしているうちに私も入札をはじめ、とうとう510ドルで落札しました。松木氏は大変如才ないバイヤーです。彼は初期版画と国芳が得意です。私は彼から今までに3枚国芳を買っただけですが、その価値に自信がなければ値段を釣り上げたりしない人です。no.108については、100ドルが適当だと感じました。松木氏もそう考えたようで、二人ともその品から撤退しました。それは急速に値上がりし、425ドルで売れました。これが初日の夜で得た全てです。全体的な値段は低く、バイヤーたちは私の知らない人ばかりでした。私達がオークションで出会うことを予測していたような人はいませんでした。マンスフィールド、ルドゥーもいませんでした。出席しているコレクターは非常に少なく、ディーラー同士の競争になりつつあるので、値段は高く上がり過ぎないだろうと思います。二日目の夜、私はno.207と216を可能な限り高くつけましたが、くやしいことに松木氏のところに行ってしまいました。no.219については120ドル以降、松木氏しか競争相手はいませんでした。145ドルであなたのために買いました。Hall氏はno.226の落札にご執心で、松木氏は彼の隣に座ってけしかけていました。彼は65ドルでストップしたので、私が67ドル50セントで手に入れました。no.235も50ドルで手に入れました。ですので、私の購入の合計は4枚で772ドル50セントです。雪の峡谷(Snow Gorge)はとてもみすばらしく、まったく興味を惹かれなかったので悲惨な状態を近づいて確認することはしませんでした。no.293は裂け目や穴はありませんでしたがしみがついてひどい状態でした。松木氏がこれを35ドルで買いました。松木氏は、友人のHall氏に譲った1枚以外、私の入札したすべての版画に入札しました。国芳分を節約するため、彼は自分を抑制していました。彼の判断を信頼しているので、いつも彼の後ろに座ろうとしますし、オークションの誰よりもその価値を知っている彼の入札に導かれることがしばしばです。私は彼のことがとても好きなので、欲

しかった品を多数彼に買わせてあげました。購入についてのご相談は、近々にお訪ね頂けるとお気兼ねなく相談頂けると思います。

責任重大でどうすべきか途方に暮れてしまうので、今回は(入札の)点数に制限を設けて下さるべきです。値段が高すぎないことに確信を持っていますが、高すぎると思ってもそう仰らないでください。個人的には、自分で不得意だと感じるものを除いて、選択には自信があります。800ドル相当と保証する版画を速達で送ります。東部でお会いできる機会は近々ないでしょうか？ちょうど18世紀に建てられた家と美しい農場を買ったところですよ。蓄えていた現金と、多くの版画をそのために売り、整えているところですよ。もしこれらを受け取られた後、残った予算があまりでしたら、気に入らなかったら返品できる条件で(版画を)お送りすることができます。……(中略)……ハミルトン・イースター・フィールド

追伸、写楽と国芳についての私の書いた記事のコピーを送ります。ご存知かどうか分かりませんが、(ブルックリン)イーグルの芸術編集員をしています。とても楽しい仕事です。”

オークションでの駆け引きの一端を生々しく伝えるこの手紙を売立目録と対照させると、表(8)の通り、4点がこの時コレクションに加わったことがわかる。隸書東海道は特に良い状態であったとはいえ、表(1)~(6)の価格に比して数倍となっている。

表(8)

Japanese Color Prints the Collection of Mrs. Adolphe Borie  
Walpole Galleries, NY (1919年5月1-2日)

| 売立No | 絵師   | 作品名                             | 判型   | 落札価格(\$) | 現在のコレクションNo |
|------|------|---------------------------------|------|----------|-------------|
| 107  | 歌川国芳 | 「東都名所 大森」                       | 大判錦絵 | 510      | 1950.533    |
| 219  | 歌川広重 | 「東海道 廿一 五十三次 鞠子」<br>(隸書東海道、以下同) | 大判錦絵 | 145      | 50.939      |
| 226  | 歌川広重 | 「東海道 十三 五十三次 沼津」                | 大判錦絵 | 67.5     | 50.932      |
| 235  | 歌川広重 | 「東海道 四十八 五十三次 関」                | 大判錦絵 | 50       | 50.966      |
|      |      | 4件                              |      | 772.5    |             |

このほか、アレン・メモリアル美術館での調査の際に、コレクションとともに保管されている3枚の領収書(請求書の可能性もあり)を拝見した。領収書1・2はニューヨークのディーラーからの購入であるが、3は店の住所が日本の鎌倉となっている。1はE. T. シマ(のちのシマ・アートカンパニー)<sup>17</sup>。2・3はともに前に挙げたフィールドからの手紙にも登場した松木喜八郎が売主であるので、松木が日本からエインズワースの注文に応えたのかもしれない。

(領収書1)

1919年10月17日

売主: E. T. SHIMA

47 W. 42nd Street, New York

作品: 広重(Edo Hyakkei) \$ 5×2枚 \$ 10

広重(Edo Hyakkei, fire work) \$ 15 (1950.1441または1442か)

広重(3枚続) \$ 12

(領収書2)

1919年12月15日か

売主: K. MATSUKI

J36 W. 112nd Street, New York

作品：国芳(?) \$ 25×8枚 \$ 200

国芳(東海道 桑名) \$ 35

国芳(東海道 保土ヶ谷) \$ 50

(領収書3)

1922年8月12日

売主：K.MATSUKI

324 Komachi, Kamakura, Japan

作品：国芳(東海道揃物のうち1枚) \$ 35

溪斎(「木曾街道 戸田川渡し舟」) \$ 40(1950.851か)

ディーラーや他の収集家からの購入については、グリーン氏の論文に、当時神戸在住であったジョン・ハッパーが日本から送ってきた懷月堂の作品に対して、彼女が日本に3500ドル支払ったというエピソードが紹介されている<sup>18</sup>。加えて、ヘンリー・アップルトンからトランクいっぱいの摺物を3000ドルで購入したこと<sup>19</sup>、メッツガーから広重の花鳥画を大量に購入したことも言及されている。表(3)で示したように、友人であったフィッケのオークション(1920)での購入が3000ドルを越えることを考えると、同様に親しい友人で、そのコレクションに親しみのあるメッツガーの売立てや、売立て時ではない個人間の取引による購入も、高額かつ多量であったろうことは想像に難くない。キーズ氏による先行研究と、現存する売立目録(1916年開催の売立目録*The Metzgar collections of Japanese prints*、落札者名の書入れがあるメトロポリタン美術館本を参照した)を参照すると、次のようになる。

表(9)メッツガーの旧蔵品

| 売立No          | 絵師   | 作品名                          | 判型    | 現在のコレクションNo | 備考                |
|---------------|------|------------------------------|-------|-------------|-------------------|
| 109<br>(1916) | 歌川広重 | 「東海道五拾三次之内 興津 興津川」(保永堂版、以下同) | 大判錦絵  | 1950.808    | \$25              |
| 137<br>(1916) | 歌川広重 | 「東海道五拾三次之内 岡崎矢矧之橋」           | 大判錦絵  | 50.829      | \$22.5            |
| 142<br>(1916) | 歌川広重 | 「東海道五拾三次之内 宮 熱田神事」           | 大判錦絵  | 50.832      | \$10              |
| 158<br>(1916) | 歌川広重 | 「東海道五拾三次之内 大津走井茶店」           | 大判錦絵  | 50.845      | \$15              |
| 263<br>(1916) | 西村重信 | 「むすめ風三ふくつひ 左 本町式丁目 いとやの小さいと」 | 細判漆絵  | 50.204      | \$22.5            |
| 504<br>(1916) | 勝川春英 | 片岡仁左衛門の高師直                   | 間判錦絵  | 50.302      | \$32.5            |
| 659<br>(1916) | 溪斎英泉 | 「支蘇路の駅 浦和宿 浅間山遠望」            | 大判錦絵  | 50.852      | \$12.5            |
| 666<br>(1916) | 歌川広重 | 「木曾海道六拾九次之内 塩なた」             | 大判錦絵  | 50.872      | \$85              |
| 673<br>(1916) | 歌川広重 | 「木曾海道六拾九次之内 賛川」              | 大判錦絵  | 50.882      | \$12.5            |
| 674<br>(1916) | 歌川広重 | 「木曾海道六十九次之内 宮の越」             | 大判錦絵  | 50.885      | \$37.5            |
| 684<br>(1916) | 歌川広重 | 「木曾海道六拾九次之内 武佐」              | 大判錦絵  | 50.916      | 不詳                |
| 691<br>(1916) | 歌川広重 | 「近江八景之内 三井晩鐘」                | 大判錦絵  | 50.1059     | \$22.5            |
| —             | 奥村政信 | 文字絵遊女図                       | 大判墨摺絵 | 50.169      | Vignier旧蔵         |
| —             | 石川豊信 | 佐野川市松と瀬川菊之丞の相合傘              | 大判紅摺絵 | 50.205      | バッキンガム／<br>ゲーキン旧蔵 |

|   |      |         |                     |         |                  |
|---|------|---------|---------------------|---------|------------------|
| — | 北尾重政 | 「鏡台秋月」  | 色紙判錦絵               | 50.290  | フェノロサ／<br>グーキン旧蔵 |
| — | 鳥居清長 | 吉原歎々楼遊興 | 大判 錦絵 (3枚続のうち<br>左) | 50.357  | フェノロサ／<br>グーキン旧蔵 |
| — | 春光   | 傘をさす芸者  | 柱絵判錦絵               | 50.377  | フレデリック・<br>メイ旧蔵  |
| — | 歌川広重 | 雨中の時鳥   | 中短冊判錦絵              | 50.1147 | —                |
| — | 歌川広重 | 竹に雀     | 中短冊判錦絵              | 50.1153 | —                |
| — | 歌川広重 | 小松に鹿    | 中短冊判錦絵              | 50.1200 | —                |
| — | 歌川広重 | 海棠に四十雀  | 間短冊判錦絵              | 50.1169 | —                |
| — | 歌川広重 | 月に蝙蝠    | 大判錦絵の3丁掛の1つ         | 50.1196 | —                |
|   |      | 22件     |                     |         |                  |

メッツガーの著書によると、落札総額が\$ 19000以上にのぼった1916年開催の所蔵品売立においては、事前に作成したカタログを世界中のコレクターに送り、オークションの数日前から750点もの版画を会場で展示していたという<sup>20</sup>。初日の11月13日は125名が会場に集まり、フィッケ、グーキン、チャンドラー、エインズワース、スポルディング兄弟、マンズフィールド、ルドゥー、フィールド、ヘンダーソンといった収集家やディーラーの面々、美術館関係者が勢ぞろいした大掛かりなオークションであった。現代の日本ではほとんどその名が知られていないメッツガーであるが、この売立ての様子は翌年6月発行の『浮世絵』に「メツガア氏の廣重蒐集品」というタイトルで記事が掲載されており、オークションカタログを入手した小島烏水によって高額で落札された作品の価格や落札者等が紹介される。残念ながら記事中にエインズワースの名は見えないものの、海外で行われる大きな売立の動向に関心を寄せる日本の愛好家は少なからずあったようだ<sup>21</sup>。

以上、エインズワースの収集をオークションでの購入や、領収書類、同時代記録などから辿ってきた。既に述べたように、数件の例外を除くほぼ全ての作品が現在もコレクション中に確認できることから、一度購入した作品を手放すことが稀であったと分かる。広重の保永堂版、隸書などの東海道物や『名所江戸百景』、北斎の『富嶽三十六景』など、大部の揃物についても、一括ではなく数点ずつ買い揃えており、比較的安価な作品であっても摺や状態を吟味し、コレクションに加えていく慎重な姿勢を見て取ることができよう。売立てにフィールドのような代理人を立てる際も、かなり細かい注文を付けていたことが手紙の端々から窺える。

しかし一方で、特に愛好していたであろう鳥居清長の《洗濯と張り物》(表2、\$ 830)や《年始回礼の支度》(表4、\$ 430)、初期浮世絵の稀品である2代鳥居清信《三幅対村雨 行平 松風》(表3、\$ 800)など、特に嗜好に合致する希少な作品については高額で入手している。ある統計では賃金労働者の平均年収が1342ドルだったという1920年当時、野菜を自家栽培し、細々とした支出をしっかりと管理していたというエインズワースの質素な暮らしぶりを鑑みると、彼女が収集に傾けていた情熱の深さを改めて感じることができる。彼女のコレクション方針について、メッツガーは次のように述べている。

“ミス・エインズワースのコレクションは、徹頭徹尾それを代表的なもの(representative)にする、という視点で選ばれている。彼女は、しばしばより美しい版画ではなく、美的には価値が劣るものの、彼女が所蔵していない絵師の作品を代表するもの、彼女のコレクションに類のない様式的特徴を示す作品を購入した。この方法を長期にわたり一貫して守ったことで、彼女は多くの美しい版画と同様に、数々の希少な版画も入手したのだ。彼女のコレクションは、真面目な(浮世絵を学ぶ)生徒にとって非常に興味深いものだった。ミス・エインズワースは当初から初期浮世絵に大いに情熱を注いでいたが、これは私たちの大多数が後世の作品を学習し終えてから辿り着くような嗜好である。我々の版画学習は、年代順に遡ってゆく。だからこそ私達の多くは、広重や今日の絵師の作品を愛好することから始

めるのだ。しかし、彼女が最初の日本旅行で購入した最初期の収集の1点は幅が広く、手彩色の豊信で、世界中のどのコレクションにあっても自慢の種になる品だ。もう1点、希少なことで知られる懷月堂派の作品も、彼女の所有となった。”<sup>22</sup>

そうして集まった1500点超の作品は、エインズワースが収集を通して自身の中に構成した浮世絵史観とその魅力の粋を、そのままに私たちに示してくれる。初期の名品から春信、春章、清長、歌麿、写楽、北斎、国芳、広重といった時代を代表する絵師の代表作と、彼らの様式に追随した門人や同時代絵師たちの作品を多様なままに網羅することによって、コレクションの鑑賞者は浮世絵の歴史を辿り、人気や流行の盛衰を追体験することができるだろう。自らの嗜好に従う収集家も多い中で、彼女の冷静で学究的ともいえる態度は特筆される。いつの時点で母校への寄贈を決意したかは定かではないが、ある種教育的な側面を持つ本コレクションが、こんにち芸術を学ぶ若者が多く集うオーバリン大学に伝わることは、非常に意義深い。

さて、意外なことにエインズワースの名は、日本で発行された浮世絵のコレクター番付の中にも見つけることができる。次節ではその番付を紹介しつつ、当時彼女が身を置いていた欧米、そして日本の浮世絵愛好について概観してみたい。

## 2 「古今東西浮世絵数寄者総番付」にみる日本・欧米の浮世絵愛好

### 【2-1「古今東西浮世絵数寄者総番付」中のエインズワース】

昭和13年(1938)5月発行とあるこの「古今東西浮世絵数寄者総番付」(図1)は、その名の通り古今の浮世絵「数寄者」の名を相撲の番付に擬してランキング形式で紹介するもので、研究者、画家、彫師、戯作者、役者、版元、美術商に至るまでの名を幅広く録する。浮世絵愛好家には、画家であり研究者、ディーラーであり収集家という具合に、横断的に活動する人物が多いため「数寄者」は便利的確な括り方だ。

特に興味深いのが、左下に設けられた「外人数寄者いろは番付」である。下段にみる「エインスオウス」がメアリー・エインズワースで、番付発行当時は存命ながら71歳という高齢であった。狭い欄内にひしめく人名は、姓のみがカタカナ表記で示されるため特定が難しいが、判明する限りを整理すると表(10)のようになる<sup>23</sup>。

表(10)「外人数寄者いろは番付」 番付の上段右から列記。

| 氏名                                                                                                  | 国・職業・勤務先                          | ゆかりの収蔵先・展示施設                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------------------|
| ジョン・ハッパー (1863-1936)<br>John S. Happer                                                              | (米／のち日本に在住)<br>実業家、ディーラー、研究者      |                                                |
| クラレンス・バッキンガム (1854-1913)<br>Clarence Buckingham<br>ケイト・バッキンガム (1858-1937)<br>Kate S. Buckingham     | (米)実業家、資産家                        | シカゴ美術館                                         |
| バーナード・リーチ (1887-1979)<br>Bernard Leach                                                              | (英)陶芸家、画家                         |                                                |
| ハロルド・ヘンダーソン (1889-1974)<br>Harold G. Henderson もしくは<br>ウィリアム・アンダーソン (1842-1900)<br>William Anderson | (米)コロンビア大学教授<br>(英)医師、来日(1873-80) | メトロポリタン美術館<br>ブルックリン美術館<br>大英博物館 <sup>24</sup> |

|                                                              |                             |                                               |
|--------------------------------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------------------------|
| チャールズ・チャンドラー (1859-1946)<br>Charles. H. Chandler             | (米)画材商                      | ホノルル美術館(ミッチナー・コレクション)・シカゴ美術館(バックinghamコレクション) |
| ルイ・ルドゥー (1880-1948)<br>Louis V. Ledeux                       | (米)詩人、実業家、研究者 <sup>25</sup> | メトロポリタン美術館<br>ブルックリン美術館ほか                     |
| ヴィルヘルム・ゾルフ (1862-1936)<br>Wilhelm H. Solf                    | (独)外交官                      |                                               |
| フランク・ロイド・ライト (1867-1959)<br>Frank Lloyd Wright               | (米)建築家                      | エルヴィエム美術館、フランク・ロイド・ライト財団ほか                    |
| アンリ・ヴェヴェール (1854-1942)<br>Henri Vever                        | (仏)宝石商                      | 松方コレクション(東京国立博物館)                             |
| ユリウス・クルト (1870-1945)か<br>Julius Kruth                        | (独)美術史家                     |                                               |
| フレデリック・ゲーキン (1853-1936)<br>Frederick W. Gookin               | (米)銀行家、研究者 <sup>26</sup>    | シカゴ美術館                                        |
| ハワード・マンズフィールド (1849-1938)<br>Howard Mansfield                | (米)法律家・メトロポリタン美術館財務部長       | メトロポリタン美術館                                    |
| アーネスト・フェノロサ (1853-1908)<br>Ernest F. Fenollosa               | (米)ボストン美術館日本部長              | ボストン美術館                                       |
| フランシス・プリנקリー (1841-1912)か<br>Francis Brinkley                | (英/日本在住)海軍砲術学校教師、ジャーナリスト    |                                               |
| エドモン・ド・ゴンクール (1822-96)<br>Edmond de Goncourt                 | (仏)小説家                      | ハンブルク工芸美術館                                    |
| ルイ・ゴンズ (1846-1921)<br>Louis Gonse                            | (仏)美術史家                     |                                               |
| メアリー・エインズワース (1867-1950)<br>Mary A. Ainsworth                | (米)資産家                      | オーバリン大学アレン・メモリアル美術館                           |
| グウィン・エバンズ (1845-1927)か<br>William Gwynne-Evans               | (英)実業家                      | 大英博物館                                         |
| アドルフォ・サルコリ (1867?-1936)か<br>Adolfo Sarcoli                   | (伊)声楽家                      |                                               |
| ウィリアム・キーン<br>William L. Keane                                | (米/日本〔横浜〕に在住)ディーラー          |                                               |
| ジャドソン・メッツガー (1869-1958)<br>Judson Metzgar                    | (米)弁護士、ディーラー                |                                               |
| カール・シュラブスター (1862-1947)<br>Carl W. Schraubstadter            | (米)家具・画材商                   |                                               |
| ポール・ジャクレ (1896-1960)<br>Paul Jacoulet                        | (仏国籍、日本に在住)版画家              |                                               |
| ローレンス・ビニヨン (1869-1943)<br>Laurence Binyon                    | (英)詩人、大英博物館東洋部長             | 大英博物館                                         |
| ジークフリート(サミュエル)・ピング<br>(1838-1905)<br>Siegfried (Samuel) Bing | (仏)美術商                      | ベルギー王立美術歴史博物館ほか                               |
| エドワード・モース (1838-1924)<br>Edward S. Morse                     | (米)動物学者、東京大学教師              |                                               |
| またはチャールズ・モース (1852-1911)か<br>Charles J. Morse                | (米)建築業                      | イエール大学美術館、ボストン美術館                             |
| オブライエン・セクストン (1866-1941)<br>J. J. O'Brien Sexton             | (英)軍人、研究者                   | 大英博物館                                         |
| ウィリアム・スボルディング (1865-1937)<br>William S. Spaulding            | (米)資産家                      | ボストン美術館                                       |
| ジョン・スボルディング (1870-1948)<br>John T. Spaulding                 |                             |                                               |

ボストン美術館、シカゴ美術館、大英博物館、メトロポリタン美術館など、浮世絵で著名な館の大コレクションを収集した富豪たち、もしくはアドバイザーや担当者として作品の収集にあたった人々の名が並ぶ。バックingham兄妹やスボルディング兄弟、フェロノサのように、今もコレクションにその名が冠される大コレクターだけでなく、マンズフィールドのように研究者として館のために作品の収集にあたった者の名も録され、広く浮世絵を愛好し、携わる人々のリストになっている点が興味深い。

## 16

左下に「昭和13年5月発行 版元 東京銀座 美術日本社」「著作印刷兼発行者 金子孚水」等と記され、美術商の金子孚水(1897-1978)が中心となって制作したものであると知れる。20年以上後ではあるが、金子が雑誌『季刊浮世絵』にこの番付についての連載を9回に渡り寄せており、制作の動機は定かではないが相当数を作り無料で配布したこと、番付上の配列に苦心したこと、浮世絵収集の規模は頭に入れつつも、「数寄者として資格があるかどうかという点」も重要視したこと、番付上で金子と同じ「世話役」である井上和雄の意見も反映していること等が述べられている<sup>27</sup>。この連載を読むと、日本人数寄者の番付上位者について様々な逸話が語られる中で、自身とは面識がないが業界で著名な人物や、金子が青年期に修業を積んだ酒井好古堂や同時代の浮世絵商を通して見聞きした顧客等も番付に含まれている。「外人数寄者いろは番付」について直接の言及はないが、お雇い外国人として来日、もしくは日本に在住していた人名が比較的多数見られる点を合わせて考えても、メンバーの選定方法は日本人数寄者と同様であろう。シカゴ・ボストン等アメリカの収集家が多く掲載されているのは、ヨーロッパにやや遅れて浮世絵収集熱が高まった米国の収集家が、金子やその主人の世代の浮世絵商達の良き顧客であったことに起因するとも考えられる。

金子が16歳から酒井好古堂で修業し、25歳で浮世絵商として独立したことから逆算して、直接売買を見聞きできたのは1913年以降と推定できる<sup>28</sup>。米国で浮世絵を含む日本美術の収集・売買が活発であった時期——すなわち、前節表(7)で示したような売立てにエインズワースが参加し、精力的に収集していた時期にも重なる。それでは、番付の大部分を占める日本人数寄者の顔ぶれはどのようなものか。番付の上位二段とその他の主要部分、本論考に関係する部分について、判明する限りを整理すると表(11)のようになる。

表(11)「古今東西浮世絵数寄者総番付」 氏名欄※印：金子が『季刊浮世絵』連載で言及。<sup>29</sup>

| 番付上の位置      | 地域 | 氏名                   | 職業          | 備考、ゆかりの収蔵先        |
|-------------|----|----------------------|-------------|-------------------|
| 東之方         |    |                      |             |                   |
| 東 横綱        | 神戸 | 松方幸次郎(1865-1950)※    | 実業家、政治家     | 東京国立博物館・国立西洋美術館   |
| 東 張出横綱      | 神戸 | 池長孟(1891-1955)※      | 資産家         | 神戸市立博物館           |
| 東 大関        | 東京 | 前川道平(1893?-?)※       | 実業家(綿織商)    |                   |
| 東 張出大関      | 滋賀 | 井伊直忠(1881-1947)※     | 華族          | 彦根城博物館            |
| 東 関脇        | 東京 | 平尾賛平(1874-1943)※     | 実業家         |                   |
| 東 小結        | 東京 | 清水洵平※                | 実業家         |                   |
| 東 張出前頭      | 神戸 | 川崎武之助(1893-1946)     | 実業家         |                   |
| 東 前頭筆頭      | 新潟 | 中野忠太郎(1862-1939)※    | 実業家         | 中野邸美術館            |
| 東 前頭二枚目     | 東京 | 武内金平(1872-1919)※     | 実業家         | 下関市立美術館           |
| 東 前頭三枚目     | 東京 | 松田福一郎(1875-?)※       | 実業家         |                   |
| 東 前頭四枚目     | 大阪 | 石井定七(1879-1945)※     | 実業家         |                   |
| 東 前頭五枚目     | 東京 | 太田新吉(清蔵)(1893-1977)※ | 実業家         | 太田記念美術館           |
| 東 前頭六枚目     | 東京 | 長尾欽弥(1892-1980)※     | 実業家         |                   |
| 東 前頭七枚目     | 神戸 | 山本發次郎(1887-1951)     | 実業家         | 大阪中之島美術館          |
| 東 前頭八枚目     | 東京 | 柴田久一※                | 実業家         |                   |
| 東 前頭九枚目     | 長崎 | 相浦眞三※                | 医師          | 福岡の医師             |
| 東 前頭十枚目     | 東京 | 内田誠(1893-1955)※      | 俳人          |                   |
| 東 前頭十一枚目    | 東京 | 渋井清(1899-1992)※      | 研究者         | (資料)慶応義塾大学アートセンター |
| 東 二段目(幕下)筆頭 | 東京 | 中村辰次郎※               | 実業家(三谷鋼鉄番頭) |                   |
| 東 二段目二枚目    | 東京 | 落合直成※                | 不詳          |                   |
| 東 二段目三枚目    | 栃木 | 菊地政蔵※                | 実業家(材木商)    |                   |
| 東 二段目四枚目    | 東京 | 大関藤吉(定吉、1854-?)※     | 実業家(粉問屋)    |                   |
| 東 二段目五枚目    | 東京 | 執行弘道(1853-1927)※     | 美術商、実業家     |                   |

|            |    |                       |             |                      |
|------------|----|-----------------------|-------------|----------------------|
| 東 二段目六枚目   | 東京 | 根本正(1851-1933)※       | 政治家         |                      |
| 東 二段目七枚目   | 東京 | 前田武四郎(1867-1931)※     | 電気技術者、実業家   |                      |
| 東 二段目八枚目   | 神戸 | 井上善吉(活泉とも、1870-1944)※ | 薬局経営者       |                      |
| 東 二段目九枚目   | 神戸 | 四本萬二(1862-?)※         | 実業家         |                      |
| 東 二段目十枚目   | 仙台 | 南日恒太郎(1871-1928)※     | 教育者(英語)     |                      |
| 東 二段目十一枚目  | 神戸 | 土屋楠熊(?-1935)※         | 実業家         |                      |
| 東 二段目十二枚目  | 東京 | 鹿島清兵衛(1866-1924)※     | 写真家         |                      |
| 東 二段目十三枚目  | 大阪 | 岡本喜兵衛(1847-?)※        | 実業家         |                      |
| 東 二段目十四枚目  | 東京 | 九鬼隆一(1852-1931)※      | 官僚、政治家      | 初代帝国博物館総長            |
| 東 二段目十五枚目  | 東京 | 末松謙澄(1855-1920)※      | 政治家         |                      |
| 東 二段目十六枚目  | 東京 | 伊藤大八(1858-1927)※      | 政治家、実業家     |                      |
| 東 二段目十七枚目  | 京都 | 村井吉兵衛(1864-1926)※     | 実業家         |                      |
| 東 二段目十八枚目  | 東京 | 小倉常吉(1865-1934)※      | 実業家         |                      |
| 東 二段目十九枚目  | 神戸 | 武藤山治(1867-1934)※      | 実業家、政治家     | 旧武藤山治邸               |
| 東 二段目二十枚目  | 岡山 | 大藤昇※                  | 弁護士         |                      |
| 東 二段目二十一枚目 | 京都 | 末次喬※                  | 不詳          |                      |
| 東 二段目二十二枚目 | 京都 | 尾高鮮之助(1901-33)※       | 研究者         |                      |
| 東 二段目二十三枚目 | 京都 | 若尾謹之助(1882-1933)※     | 実業家、政治家     |                      |
| 東 二段目二十四枚目 | 大阪 | 本山彦一(1853-1932)       | 実業家、政治家     |                      |
| 東 二段目二十五枚目 | 大分 | 首藤定(1890-1959)        | 実業家         | ロシア国立東洋美術館、京都国立近代美術館 |
| 東 三段目二十七枚目 | 東京 | 根津嘉一郎(1860-1940)※     | 実業家、政治家     | 根津美術館                |
| 東 三段目三十三枚目 | 大阪 | 山中吉郎兵衛(1847-1917)     | 美術商         | 山中商会                 |
| 東 四段目三十一枚目 | 東京 | 村田金兵衛(1852-1916)※     | 美術商         |                      |
| 東 四段目三十二枚目 | 東京 | 吉田金兵衛(1860-1916)※     | 美術商         |                      |
| 東 四段目三十三枚目 | 京都 | 松木善右衛門(1864-1931)     | 美術商         | 松木喜八郎長兄              |
| 東 四段目三十四枚目 | 東京 | 酒井藤兵衛(1844-1911)      | 美術商、版元      | 酒井好古堂                |
| 東 四段目三十五枚目 | 東京 | 林縫之助                  | 美術商         |                      |
| 西之方        |    |                       |             |                      |
| 西 張出横綱     | 東京 | 三原繁吉(1862?-1945?)※    | 実業家         | 平木浮世絵美術館             |
| 西 横綱       | 東京 | 藤懸静也(1881-1958)※      | 美術史家        |                      |
| 西 大関       | 東京 | 鍋本清方(1878-1972)※      | 画家          |                      |
| 西 張出大関     | 東京 | 坪内逍遙(1859-1935)※      | 文筆家、研究者     | 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館     |
| 西 関脇       | 東京 | 小島烏水(1873-1948)※      | 文筆家、登山家     | 横浜美術館                |
| 西 小結       | 京都 | 竹内栖鳳(1864-1942)※      | 画家          |                      |
| 西 前頭筆頭     | 松江 | 桑原羊次郎(1868-1955)※     | 実業家、政治家、研究者 | 島根大学附属図書館(蔵書)        |
| 西 前頭二枚目    | 京都 | 菊池契月(1879-1955)※      | 画家          |                      |
| 西 前頭三枚目    | 大阪 | 内田實※                  | 研究者         |                      |
| 西 前頭四枚目    | 東京 | 狩野亨吉(1865-1942)※      | 研究者         | 東北大学附属図書館(版本)        |
| 西 前頭五枚目    | 東京 | 齋藤豊作(1880-1951)※      | 画家          |                      |
| 西 前頭六枚目    | 東京 | 笹川臨風(1870-1949)※      | 文筆家、俳人      |                      |
| 西 前頭七枚目    | 東京 | 木村斯光(1895-1976)※      | 画家          |                      |
| 西 前頭八枚目    | 東京 | 山村耕花(1885-1942)※      | 画家          |                      |
| 西 前頭九枚目    | 京都 | 堂本印象(1891-1975)※      | 画家          |                      |
| 西 前頭十枚目    | 東京 | 梅原龍三郎(1888-1986)※     | 画家          |                      |
| 西 前頭十一枚目   | 東京 | 田中喜作(1885-1945)※      | 研究者         |                      |
| 西 二段目筆頭    | 京都 | 西村総左衛門(1855-1935)※    | 染色家         | 株式会社千總               |
| 西 三段目三十枚目  | 横浜 | 原六郎(1842-1933)※       | 軍人・実業家      | ハラミュージアムアーク          |
| 西 二段目二枚目   | 横浜 | 原邦造(1883-1958)※       | 実業家         |                      |
| 西 二段目三枚目   | 東京 | 福岡秀猪(1871-1932)※      | 法学者         |                      |
| 西 二段目四枚目   | 東京 | 高橋誠一郎(1884-1982)※     | 研究者・政治家     | 慶應義塾                 |
| 西 二段目五枚目   | 東京 | 永井荷風(1879-1959)※      | 文筆家         |                      |
| 西 二段目六枚目   | 京都 | 黒田源次(1886-1957)※      | 生理学者、美術史家   | 奈良国立博物館(館長)          |
| 西 二段目七枚目   | 東京 | 吉田暎二(1901-72)※        | 研究者         |                      |
| 西 二段目八枚目   | 東京 | 木村莊八(1893-1958)※      | 画家          |                      |
| 西 二段目九枚目   | 東京 | 高安月郊(1869-1944)※      | 劇作家、詩人      |                      |

|              |          |     |                      |                          |                          |
|--------------|----------|-----|----------------------|--------------------------|--------------------------|
| 西            | 二段目十枚目   | 京都  | 吉川観方(1894-1979)※     | 画家、研究者                   | 京都府立総合資料館・奈良県立美術館・福岡市博物館 |
| 西            | 二段目十一枚目  | 東京  | 石井柏亭(1882-1958)※     | 画家                       |                          |
| 西            | 二段目十二枚目  | 東京  | 相見香雨(1874-1970)※     | 研究者                      |                          |
| 西            | 二段目十三枚目  | 東京  | 石井研堂(1865-1943)※     | ジャーナリスト、研究者              |                          |
| 西            | 二段目十四枚目  | 東京  | 牛山 充(1884-1963)※     | 音楽・舞踊評論家                 |                          |
| 西            | 二段目十五枚目  | 東京  | 織田一磨(1882-1956)※     | 版画家、研究者                  | 東京文化財研究所(絵本類)            |
| 西            | 二段目十六枚目  | 東京  | 山下新太郎(1881-1966)※    | 画家                       |                          |
| 西            | 二段目十七枚目  | 東京  | 林若樹(1875-1938)※      | 古物収集家                    |                          |
| 西            | 二段目十八枚目  | 東京  | 石川確治(1881-1956)※     | 彫刻家                      |                          |
| 西            | 二段目十九枚目  | 東京  | 小糸源太郎(1887-1978)※    | 画家                       |                          |
| 西            | 二段目二十枚目  | 東京  | 野口米次郎(1875-1947)※    | 詩人、文筆家                   |                          |
| 西            | 二段目二十一枚目 | 東京  | 島田筑波(1885-1951)※     | 出版社経営、研究者                |                          |
| 西            | 二段目二十二枚目 | 東京  | 古堀栄(?-?)             | 不詳                       |                          |
| 西            | 二段目二十三枚目 | 東京  | 邦枝完二(1892-1956)      | 文筆家                      |                          |
| 西            | 二段目二十四枚目 | 東京  | 宮川曼魚(1886-1957)      | 文筆家                      | 早稲田大学図書館(版本)             |
| 西            | 二段目二十五枚目 | 東京  | 村上静人(1884-1960)      | 作家、翻訳家                   |                          |
| 西            | 二段目二十六枚目 | 東京  | 林和(1887-1954)        | 劇作家                      |                          |
| 西            | 三段目十四枚目  | 名古屋 | 尾崎久彌(1890-1972)      | 教育者、研究者                  | 名古屋市博物館(浮世絵)、蓬左文庫(蔵書)    |
| 西            | 三段目二十五枚目 | 東京  | 岩崎小彌太(1879-1945)     | 実業家                      | 静嘉堂文庫美術館                 |
| 西            | 三段目三十四枚目 | 東京  | 平野千恵子(1879-1939)     | 研究者                      | ボストン美術館(研究員)             |
| 西            | 四段目十三枚目  | 東京  | 平川健吉※                | 美術商                      | 小林文七・山中商会 番頭             |
| 西            | 四段目十四枚目  | 東京  | 村田幸吉※                | 美術商                      |                          |
| 西            | 四段目十五枚目  | 東京  | 松本平吉(1871-1931)※     | 版元                       |                          |
| 西            | 四段目十六枚目  | 東京  | 松井栄吉※                | 版元、摺師                    |                          |
| 西            | 四段目二十一枚目 | 東京  | 渡邊庄三郎(1885-1962)※    | 美術商、版元                   |                          |
| 西            | 四段目二十二枚目 | 東京  | 松木喜八郎(1879-1942)※    | 美術商                      | 松木善右衛門弟                  |
| 行司・世話役・勸進元など |          |     |                      |                          |                          |
| 行司           |          | 東京  | 若井兼三郎(1834-1908)※    | 美術商                      |                          |
| 行司           |          | 東京  | 小林文七(1863-1923)※     | 美術商、版元                   |                          |
| 行司           |          | 大阪  | 宮武外骨(1867-1955)※     | 新聞記者、研究者                 |                          |
| 行司           |          | 東京  | 林忠正(1853-1906)※      | 美術商                      |                          |
| 行司           |          | 東京  | 高嶺秀夫(1854-1910)      | 教育者                      | 帝国博物館天産部部長、東京美術学校校長      |
| 行司           |          | 酒田  | 本間耕曹(1841-1909)      | 政治家                      |                          |
| 行司           |          | 東京  | 神田孝平(1830-98)        | 政治家                      |                          |
| 行司           |          | 神戸  | 服部一三(1851-1929)※     | 政治家                      |                          |
| 行司           |          | 神戸  | 武岡豊太(1864-1931)※     | 実業家                      |                          |
| 行司           |          | 東京  | 橋口五葉(1881-1921)※     | 画家                       |                          |
| 行司           |          | 横浜  | 下村観山(1873-1930)※     | 画家                       |                          |
| 行司           |          | 東京  | 岸田劉生(1891-1929)※     | 画家                       |                          |
| 行司           |          | 東京  | 和田維四郎(1856-1920)※    | 鉱物学者                     |                          |
| 行事           |          | 大阪  | 山中定次郎(1866-1936)※    | 美術商                      |                          |
| 行司           |          | 東京  | 春木壽美吉(?-?)※          | 呉服問屋                     | 日本橋の呉服問屋                 |
| 年寄           |          |     | 帝室博物館                | 1900年成立、現在の東京・京都・奈良国立博物館 |                          |
| 年寄           |          |     | 帝国図書館                | 1897年設置、現在の国立国会図書館       |                          |
| 年寄           |          |     | 東京市立日比谷図書館           | 1908年開館、現在の日比谷図書文化館      |                          |
| 年寄           |          |     | 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館     | 1928年設立                  |                          |
| 年寄           |          |     | 慶應義塾図書館              | 1912年開館                  |                          |
| 年寄           |          |     | 煙草専売局                | たばこと塩の博物館(1978年開館)       |                          |
| 世話役          |          |     | 金子孚水(1897-1978)      | 美術商                      | 当番付を作成                   |
| 世話役          |          |     | 井上和雄(雨石)(1889-1946)※ | 研究者                      | 当番付を作成                   |
| 勸進元          |          |     | 美術日本社※               | 金子が創刊した「美術日本」を発行。        |                          |

番付の上位を見ると、実業家、あるいは政治家や資産家のコレクターが最多で、特に「東之方」に多く見受けられる。一方の「西之方」には、画家や文筆家、研究者の名が目につき、必ずしも収集の規模

が順位に反映されている訳ではない。生没年に留意すると、若井兼三郎(1834生)や酒井藤兵衛(1844生)ら幕末生まれの年長組から、池長孟(1891生)や吉川観方(1894生)ら明治20年代の生まれまで、生年にも50年以上開きがあり、「古今東西浮世絵数奇者総番付」の名に違わず、幅を持たせた年代からの選定となっている。

まず、収集家達の顔ぶれを眺めると、東の横綱は川崎造船所社長を務めた実業家松方幸次郎で、旧蔵の浮世絵は東京国立博物館に所蔵される。張出横綱は神戸市立博物館にコレクションが伝わる洋風画の収集家池長孟。対する西の張出横綱は日本郵船の重役を務め、橋口五葉のパトロンとしても知られる三原繁吉で、コレクションは現在平木浮世絵美術館に収蔵される。そのほか、美術館・博物館にコレクションが現存する人名を列記するだけでも井伊直忠(彦根城博物館)、坪内逍遙(早稲田大学坪内博士記念演劇博物館)、小島烏水(横浜美術館)、太田新吉(清蔵)(太田記念美術館)、山本發次郎(大阪中之島美術館)、根津嘉一郎(根津美術館)、原六郎・邦造父子(ハラミュージアムアーク)、吉川観方(京都府立総合資料館・奈良県立美術館・福岡市博物館)、尾崎久彌(名古屋市博物館・蓬左文庫)、岩崎小彌太(静嘉堂文庫美術館)といった錚々たる顔ぶれとなる。さらに19世紀末～20世紀初頭に開館した浮世絵を収蔵する施設についても、現在の東京国立博物館、国立国会図書館、日比谷図書文化館、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、たばこと塩の博物館が「年寄」として紹介される。

次に、明治末年～昭和にかけて発行された、浮世絵の専門雑誌の発行に関連する人物を拾っていくと、先駆である『此花』(1910-12)を手掛けた宮武外骨(番付には行司として掲載)、『浮世絵』(1915-20)を発行した酒井好古堂(酒井藤兵衛[発行時の当主は庄吉])、次いで発行された『浮世絵の研究』(1921-27)は1921年(大正10)に結成された日本浮世絵協会の会誌であるが、理事長の三原繁吉、理事16名のうち落合直成、九鬼三郎、石井研堂、前田武四郎、藤懸静也、星野日子四郎、武岡豊太、執行弘道、内田實、牛山充、井上和雄の名が掲載される。その後発行の『浮世絵』(1928、4号のみ)と『浮世絵志』(1929-31)はほぼ同じ同人によるもので、うち大曲駒村、小島烏水、田中喜作、尾高鮮之助、永見徳太郎、山村耕花、井上和雄がこの番付に名を連ねている。

さらに、研究の興隆と人気の高まりに連動して制作された古版画の復刻や、新版画関係の人物に着目しよう。大正期には、前述の『浮世絵』を発行した酒井好古堂や日本浮世絵協会、さらに出版のために会員を募る吾妻錦絵保存会などにより、古版画・版本の質の高い複製が制作された。当時新進の版元だった渡邊庄三郎も、復刻やそれを収録した画集の発行を足掛かりに技術を進展させて新版画の発行へと歩を進めた。その作画を手掛けた橋口五葉、伊藤深水、山村耕花、織田一麿、山中古洞、吉川観方、ポール・ジャクレーらの名も、番付に見出すことができる<sup>30</sup>。

最後に、制作者の金子が身を置いた売買の世界に携わる浮世絵商や版元達に触れておきたい。「行司」として特に大きく、華々しく名が記される若井兼三郎、小林文七、林忠正、山中定次郎はいずれも欧米に浮世絵を含む日本の古美術品を大量に輸出したことで著名な美術商である。他にもエインズワースも作品を購入した松木喜八郎、山中商会・小林文七と関係が深く1917年にニューヨークでコレクションを売立てに出した平川健吉<sup>31</sup>、金子が番頭として働いた好古堂の酒井藤兵衛のほか、村田幸吉、松木平吉、松井栄吉、渡邊庄三郎、村田金兵衛、吉田金兵衛、松木善右衛門、林縫之助らの名も見える。

若井や林、小林といった伝説的な「行事」が仲介し、「外人数奇者いろは番付」に載るような欧米の数奇者達の間でまず本格的な収集や研究が勃興する。日本でも多くの数奇者が台頭して、日本と欧米の名だたるコレクションが形成され、やがて美術館・博物館・図書館でも本格的な収蔵が始まる。さらに浮世絵とは不可分の新版画の興隆や復刻の制作、さらには多くの画家達も積極的に貢献して進展した研究史

までも見渡すことのできるこの番付を読み解いていくと、黎明期から現在まで、脈々と繋がるダイナミックな浮世絵愛好の潮流や、コレクター、美術商たちの群雄割拠する様を概観することができよう。

番付全体の紹介が長くなったが、この明治～昭和初期における浮世絵愛好を総括するランキングの中に、数寄者の一人としてメアリー・エインズワースの名が留められたことは喜ばしい。しかし、管見の限りこの番付以外、日本でエインズワースの名が紹介された形跡はなく、さらに発行当時(1938)は70歳を超える高齢で、収集もストップしていたことを鑑みると、その経緯がいささか不思議ではある。理由は様々に考えることができるが、金子が番頭をしていた酒井好古堂、或いは青年期に多大な影響を受けたと思しい小林文七の顧客であったことにより、特に当時の日本では珍しい女性の収集家として、その名を伝え聞いていた可能性が高いように思われる。これについては、エインズワースコレクションのうち4点が小林の旧蔵品で、うち2点は裏面に小林文七の「蓬枢閣」印が捺されているという報告や、フェノロサと親交のあった小林が米国に多く顧客を持って年に1度は渡米していたこと、一時期はサンフランシスコに支店を構えていたこと等が示唆的である。ただし、別人の手を経てコレクションに加わった可能性もあり、直接的な取引を跡付けるには至らない<sup>32</sup>。前に述べたようにジョン・ハッパーや松木喜八郎ら日本にあったディーラーとの取引は同時代の証言や領収書から確認できるので、金子や、ともに番付の作成に携わった井上和雄がそうした浮世絵商達から名を耳にしていた可能性も併せて考えるべきだろう。

番付が発行された6年後の1944年、先んじて英文で発行されていた平野千恵子『鳥居清長の生涯と芸術』が日本語で刊行される。51件(現在の件数)の清長作品を擁するエインズワースは平野氏の調査に応じていたと見られ、特に希少な細判紅摺絵《三代目大谷広次の樋口次郎》(1950.334)や、《三代目瀬川菊之丞の濡髪の小静》(1950.333)、《江戸八景 金龍山の暮雪 愛宕山の秋月》(1950.326)の3点が図版で紹介され、蒐集家一覧の版画の部には「メアリー・エインズワース嬢(イリノイ州) Miss Mary Ainsworth, Moline, Illinois」とその名が掲載される<sup>33</sup>。その後、1981年の『浮世絵聚花』に美術館所蔵として作品が数点掲載されるが、コレクション全体や収蔵の経緯について詳細は述べられておらず、この度の展覧会がエインズワースと彼女が築いたコレクションを本格的に紹介する日本で初めての機会となる<sup>34</sup>。

本稿では、エインズワースの収集について詳述してきたが、彼女自身の人柄についてほとんど述べるができなかった。家族や友人の証言にみる彼女はいささか変わり者で非常に意志が強く、特注の眼鏡や帽子が個性的な服装を好んでいたらしい。小銭を入れるためのポケット付きのペチコートを考案して、取り出す度にぎょっとされつつも愛用していたり、自ら車を運転し、高齢になっても国内外への旅行を続けたりと、新進的でチャーミングな人柄を伝える逸話も多く伝えられている。そんな彼女は終世独身であったが、不惑を目前に訪れた日本で浮世絵に魅了され、25年にも及ぶ収集へと乗り出した。彼女が身を投じた世界はまさに「古今東西浮世絵数奇者総番付」に名を連ねる欧米・日本の人々——今となっては伝説的な収集家、研究者が群雄割拠し、活躍した刺激的な時代であった。

彼女が経たはずの様々な収集の冒険について興味は尽きないが、初の里帰り展に携わった者としては、戦前の日本においてわずかなりともその存在が認識されていたことは嬉しく、彼女が情熱を注いだ収集の過程を辿った後に改めて「エインズワース」の一行を見つめていると、名だたる収集家が競い合うオークションルームに、決然とあった彼女の姿に重なってみえる。

## 謝辞

本稿執筆のきっかけとなったオーバリン大学での作品調査について、メトロポリタン東洋美術研究センター東洋美術研究振興基金研究助成(平成28年度)を頂きました。また、調査の実施と展覧会の実現に当たっては、同大学アレン・メモリアル美術館学芸員ケビン・グリーンウッド氏をはじめとする、同館の皆様にも多大なるご協力を賜りました。英文資料の邦訳について山田隆行氏、三原繁吉の生没年については吉井大門氏にそれぞれご指導・ご教示を仰ぎ、番付の写真掲載については神戸市立博物館と同館学芸員の石沢俊氏にご助力を賜りました。末筆ながらここに記し深謝申し上げます。

- 1 William Green, *Mary A. Ainsworth: Pioneer American Woman Collector of Japanese Prints*, 『IMPRESSIONS』12, Ukiyo-e Society of America, 1986
- 2 Kevin Greenwood, *A Lasting Legacy: The Mary A. Ainsworth Collection* 『オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵メアリー・エインズワース浮世絵コレクション—初期浮世絵から北斎・広重まで』展カタログ(千葉市美術館ほか、2019)
- 3 前掲註2、グリーンウッド論文参照。
- 4 Judson. D. Metzgar, *Adventures in Japanese Prints*, 1943
- 5 前掲註4、メッツガー書参照。
- 6 Arthur D. Ficke, *Chats on Japanese Prints*, 1915, Plate44
- 7 Julia Meech, *The Early Years of Japanese Print Collecting in North America*, 『IMPRESSIONS』25, Ukiyo-e Society of America, 2003に詳しい。
- 8 龍宣《Dragon and Mountain》(絹本墨画、1970.86)を指す。
- 9 この書簡(原本は英文)はアレン・メモリアル美術館にコレクションとともに保存されている。また、文中の「カンダソテイ」は仏画師の神田宗庭であろう。
- 10 前掲註1、グリーン論文より引用。
- 11 Roger S. Keyes, *Japanese Woodblock Prints ; A Catalogue of the Mary A. Ainsworth Collection*, Allen Memorial Art Museum Oberlin College, 1984
- 12 この売立目録については、メトロポリタン美術館蔵本にも落札者の書入れが見られたため合わせて確認したが、齟齬はなかった。
- 13 *American Art News*, Vol. 18, no. 17, New York, 1920, 2月14日付記事Ficke Print Saleを参照。
- 14 目録には旧蔵者は記載されていないが、ロジャー・キーズ氏は前掲の目録でこれをJaquinの売立てとされている。
- 15 前掲註1、グリーン論文、註11キーズ書所載の目録と、同書所載のクロエ・ヤング氏によるForewordを参照。先行研究で名が挙がる以外にも、オーバリン大学所蔵のエインズワース旧蔵の売立目録は他にも多数あるため、主なものを抜粋した。
- 16 この書簡は現在オーバリン大学アレン・メモリアル美術館にエインズワースコレクション関連資料として保管されている。また、全文が前掲註1、グリーン論文に掲載されている。
- 17 住居晃太郎「シマ・アートカンパニーの歴史」(『よみがえる浮世絵—うるわしき大正新版画展』図録、東京都江戸東京博物館、2009)参照。1908年に島虎蔵が創業し、浮世絵、陶磁器などを取り扱った。のちに新版画の販売も手がけるようになる。
- 18 前掲註1、グリーン論文参照。メッツガーによる甥のハワード・ゲッツ氏宛書簡にこのエピソードが記されるという。この懐月堂派の作品を現在のコレクションに求めるならば、懐月堂安知の大大判丹絵《遊女図(銀杏文様)》(1950.183)か。ハッパーからの購入については、キーズ氏の目録に葛飾北斎《風流四季の月 夏》(1950.705)  
歌川広重《江都名所 両国橋納涼》(1950.1108)  
二代歌川広重《東都三十六景 増上寺朝霧》(1950.1503)  
歌川広重《京都名所之内 島原出口之柳》(1950.1046)  
歌川広重《木曾海道六拾九次之内 大久手》(1950.897)  
歌川広重《六十余州名所図会 大和 立田山竜田川》(1950.1257)  
以上6点の裏面にハッパー旧蔵印が認められると指摘される。
- 19 退役した海軍大佐であったというアップルトン(Henry Appleton)の旧蔵品については、キーズ氏目録に次の22点が指摘されている。\*印をつけた4点以外は全て摺物で、「トランクいっぱいのお摺物」という証言に一致する。  
鳥居清満《中村富士郎のお夏》(柱絵判紅摺絵、1950.224)\*  
勝川春章(没後)《大江山四幅対》(中判摺物、1950.284)  
窪俊満《新春の神社》(長大判摺物、1950.324)  
無款(歌川派か)《群仙図》(長大判摺物、1950.325)  
喜多川歌麿《東下りの衝立》(長判摺物、1950.425)  
喜多川歌麿《羽根突き》(長大判摺物、1950.426)  
二代喜多川歌麿《立花》(長大判摺物、1950.427)  
北尾重政《紅葉狩行幸》(長大判摺物、1950.462)  
歌川国貞《首尾の松の屋根船の芸者》(色紙判摺物、1950.474)

- 相覧(村片相覧か)《宝船》(色紙判摺物、1950.475)  
 魚屋北溪《月宮殿》(長短冊判摺物、1950.478)  
 魚屋北溪《浮舟》(色紙判摺物、1950.479)  
 魚屋北溪《江島紀行 龍洞 十六番続》(色紙判摺物、1950.480)  
 魚屋北溪《江島紀行 六郷》(色紙判摺物、1950.481)  
 岳亭春信《林和靖》(色紙判摺物、1950.488)  
 龍斎重春《玉卮彈琴図》(大判摺物、1950.493)  
 溪斎英泉《熱海温泉之図》(色紙判摺物、1950.501)  
 葛飾北斎《稲刈り》(長判摺物、1950.766)  
 葛飾北斎《風揚げ》(長判摺物、1950.767)  
 鳥居清長《奈須与一》(細判紅摺絵、1950.229) \*売立てでの購入、\$ 5  
 喜多川歌麿《浮世七ツ目合 丑未》(大判錦絵、1950.413) \*売立てでの購入、\$ 70  
 歌川広重《東都名所 浅草金龍山下東橋南中望》(中短冊判錦絵、1950.1124) \*売立てでの購入 \$ 32.5。  
 ただし前掲註7のミーチ論考には、1914年にゲーキンがエインズワース、フィッケ、メッツガーを招いてアップルトンのコレクションを見る小規模のprint festについての言及があることから、一括での購入ではなく、複数回に入手した可能性が高い。
- 20 前掲註4のメッツガー書の7章「同時代のコレクション」参照。  
 21 小島烏水「メツガア氏の廣重蒐集品」(『浮世絵』25号、1917)。出品点数は737点、売上総高が日本円で38,182円であったことを述べ「自国の貴重な版画を粗末に取り扱う人々に示す。」と結んでいる。  
 22 前掲註4、メッツガー書7章を参照。  
 23 「ハンター」「タトル」「ライドハール」「ウィンケル」「マイル」「マーテン」「モスレー」については不詳。各人の生没年、略歴については主に永田生慈『資料による近代浮世絵事情』(三彩社、1992)、前掲註7ミーチ論考を参照した。  
 24 大英博物館に関係する人物・コレクターの生没年については同館ウェブサイト所蔵品データベース(Biographical details)を参照した。  
 25 松木喜八郎「親日浮世絵愛好者LUDEUX氏」(『浮世絵界』5巻6号、1940)、エイミー・G・ポスター「ブルックリン美術館の浮世絵とアジア美術」(『ブルックリン美術館所蔵浮世絵名品展』図録、産経新聞大阪本社、1999)を参照。  
 26 三原繁吉「米国における浮世絵研究の第一人者 フレデリック・W・ゲーキン翁」、松木喜八郎「来朝中のゲーキン氏の印象」、藤懸静也「シカゴ市にゲーキン氏を訪問するの記」(いずれも『浮世絵界』1巻2号、1936)を参照。  
 27 「浮世絵数寄者番附のはなし」(『季刊浮世絵』1-5号、7号、4巻5-6号、4巻9号、1962.3-1965.8)  
 28 白崎秀雄「ある北斎狂の一生―肉筆浮世絵に憑かれた金子孚水」(『芸術新潮』10月号、新潮社、1978)、青木進三朗「この道ひとすじ浮世絵の道―金子孚水師を偲ぶ」(『浮世絵芸術』58、国際浮世絵学会、1978)参照。  
 29 生没年等については、『京浜実業家年鑑』(京浜実業新報社、1907)、前掲註23永田書、東京文化財研究所物故者記事データベース、朽木ゆり子「ハウス・オブ・ヤマナカ 東洋の至宝を欧米に売った美術商」(新潮社、2011)等を参照。詳細が不詳の人物については、参考のために職業等を備考欄に示した。  
 30 エインズワースコレクションには、多くはないが大正期に発行された複製や新版画も含まれる。複製は大正8年(1919)酒井好古堂発行の「東海道余興と成田道中」(1950.1495.1-21)。新版画は、フリッツ・カベラリ《松島(帆船)》(大正3年[1914]、1950.695)、川瀬巴水《松島かつら浜》、《塩原あら湯路》、《塩原しほがま》、《東京十二題 こまがた河岸》(大正7-8年[1919-20]、1950.687-690)、橋口五葉《紅筆を持てる女》、《髪梳ける女》、《長襦袢を着たる女》、《神戸の宵月》(全て大正9年[1920]、1950.691-94)。  
 31 表(7)および註15を参照。購入作品の特定はできなかったが、エインズワースが平川健吉のオークションに参加したことが指摘されている。平川については竹田泰次郎「玩古洞浮世絵漫談(一)」(『浮世絵』2巻10号、1932)を参照。大阪の山中商会の番頭であった平川は一時期竹田の叔父にあたる吉田金兵衛宅に身を寄せ、その後小林文七の番頭として働いたが、後年山中商会に復帰し、浅草で山中の代理店として浮世絵の買い入れ係をしていたという。  
 32 小林文七旧蔵の可能性については前掲註11、キーズ書目録による。具体的には以下の通り。  
 葛飾北斎《富嶽三十六景 甲州犬目峠》(大判錦絵、1950.709)旧蔵とのみ言及。  
 歌川広重《東海道五十三次 十二 三島》(大判錦絵、1950.931)裏面に蓬樞閣印あり。  
 歌川広重《不二三十六景 箱根山中湖水》(中判錦絵、1950.1205)裏面に蓬樞閣印あり。  
 歌川広重《不二三十六景 駿河薩岳嶺》(中判錦絵、1950.1206)旧蔵とのみ言及。  
 文七については山口静一「小林文七事蹟」(『埼玉大学紀要(総合篇)』第6巻、1988)に詳しい。  
 33 平野千恵子「鳥居清長の生涯と芸術」(味燈書房、1944)参照。エインズワース蔵品として目録に掲載された清長作品は次の15点。  
 《九代目市村羽左衛門の狂女》(1950.331)、《年始回礼の支度》(1950.346)、《三代目大谷広次の樋口次郎》(1950.334)、《三代目瀬川菊之丞のお浪》(1950.330)、《二代目市川門之助の助六》(1950.336)、《四季八景 初春晴嵐》(1950.344)、《四季八景 暮春晚鐘》(1950.345)、《三代目瀬川菊之丞の濡髪の小静》(1950.333)、《山王御祭礼 新大坂町 通油町 田所町》(1950.338)、《江戸八景 金龍山の暮雪 愛宕山の秋月》(1950.326)、《眉を粧る芸者》(1950.372)、《庭に立つ遊女》(1950.368)、《風俗東之錦 汐汲》、《戯童十二月 初午稲荷詣》(1950.348)、《二代目市川団十郎の艾壳》(1950.328)  
 34 『浮世絵聚花 ミネアポリス美術館 ポートランド美術館他』(小学館、1981)を参照。そのほか日本で参照できるものとして、アレン・メモリアル美術館のウェブサイトが有用で、所蔵浮世絵版画についてのデータ及び一部の画像を閲覧できる。また、展覧会の開催に先立ち、オーバリンプロジェクト実行委員会「メアリー・エインズワース・コレクション浮世絵版画目録〔調査報告〕」(『千葉市美術館研究紀要 採蓮』19、2017)に調査データを掲載した。

# The Mary Ainsworth Ukiyo-e Collection

The dawn of the romance with Ukiyo-e in Japan and the West and  
the history of collecting as seen in a material source

Marie Matsuoka

In 2016, the Chiba City Museum of Art carried out research of the Mary Ainsworth Ukiyo-e Collection, in cooperation with the Shizuoka City Museum of Art and the Osaka City Museum of Fine Arts, on location at the Allen Memorial Art Museum of Oberlin College, USA, where it is housed. Now, from April 2019, an exhibition, based on the results of that research, is being held that introduces around 200 Ukiyo-e prints chosen from the collection.

This paper traces the process of how Mary Ainsworth (1867-1950), the creator of this collection, went about amassing the artworks, based on extant sales catalogues, letters and receipt documents. Much has already been elucidated by William Green and Roger Keyes on the creation of the collection, and this paper greatly relies on that. In addition, the latter half of the paper introduces “Ranking List of Ukiyo-e Connoisseurs Then and Now, East and West” (published 1938), a ranking of collectors published in Japan on which Mary Ainsworth’s name can be found, and the paper hopes to confirm Ainsworth’s position amidst the enthusiasm for Ukiyo-e in Japan, Europe and America at that time.

(Translated by Barbara Cross)

Bulletin of Chiba City Museum of Art  
Siren No.21

March 30, 2019

Edited and Published by

**Chiba City Museum of Art**

3-10-8 Chuo, Chuo-ku, Chiba 260-8733 JAPAN

Phone. 043-221-2311

Translated by

**Barbara Cross**

Produced by

**erA**

ISSN 1343-148X

千葉市美術館研究紀要  
採蓮 第二一号

二〇一九年三月三〇日発行

編集・発行―財団法人千葉市教育振興財団  
千葉市美術館

〒〇一八七三 千葉市中央区中央三―一〇―八  
電話 〇四三―二二―二三一一（代）

翻訳協力―バーバラ・クロス

制作―e r A